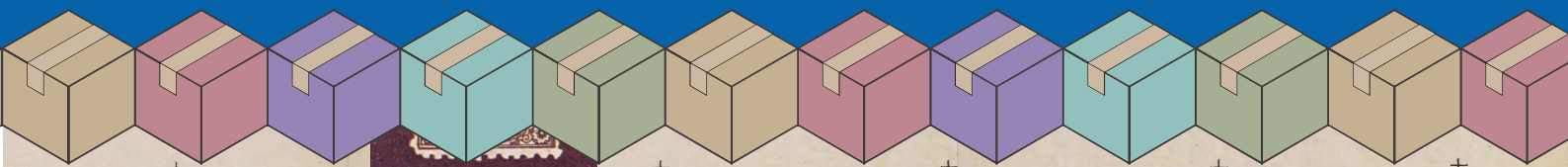


第 35 回関西館資料展示

資料展示解説

お届けものです!

～モノと情報の輸送史～



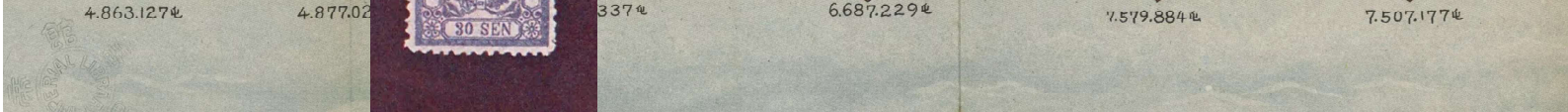
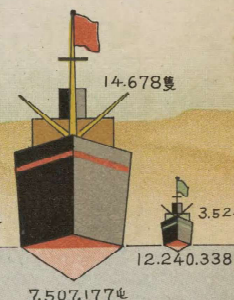
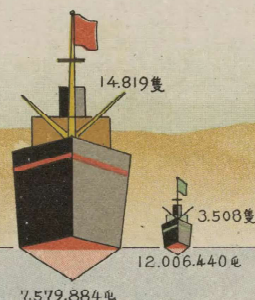
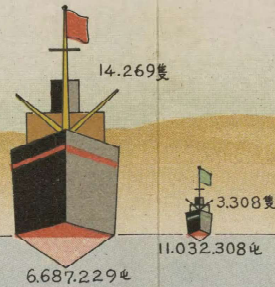
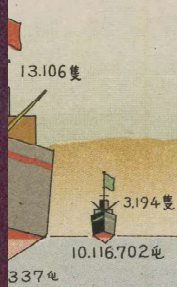
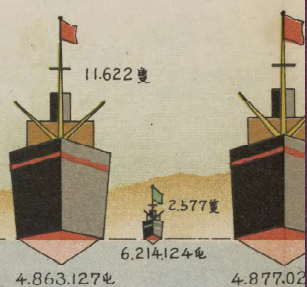
大正元年

大正十年

大正十二年

大正十三年

大正十四年



私たちの暮らしは、モノや情報が運ばれることによって成り立っています。それらを運ぶ手段は、古くは人力や家畜を利用したものから始まり、中世の水運、江戸時代の廻船、そして近代以降は鉄道や自動車など、時代とともに発展してきました。本展示では、古代から現代に至るまでの、モノや情報の輸送の変遷をご紹介します。

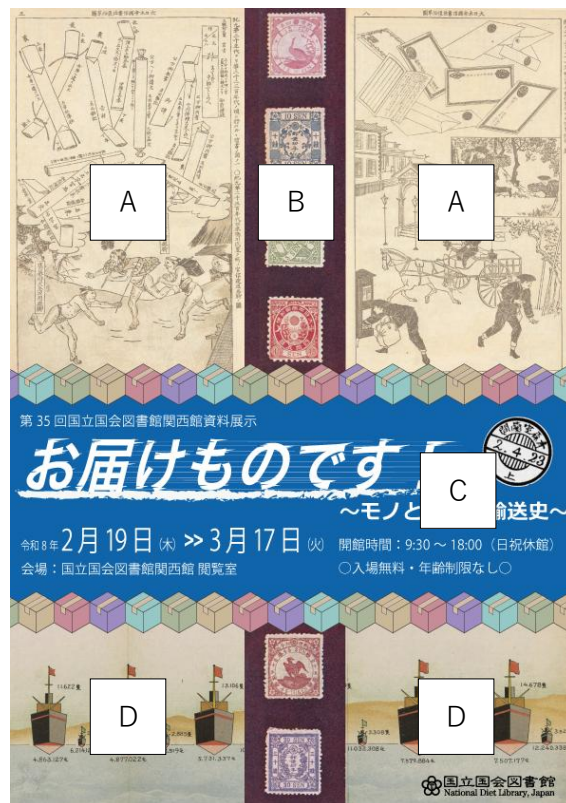
どんな輸送手段が日本にはあったのか？モノや情報の輸送によって世の中はどのように変わってきたのか？魅力あふれる輸送の歴史をお届けします！

目次

第1章：物流とは、輸送とは	p.4
第2章：近世までの陸上輸送と郵便	p.9
第3章：水運	p.14
第4章：鉄道	p.21
第5章：自動車	p.25
第6章：輸送の現在	p.28

↓↓ちらし・ポスターに使用した資料の解題はこちら↓↓

- A. 4 大日本交通史：原名 駅通志稿 p.5
- B. 25 大日本郵便切手類鑑 改訂増補版 p.12
- C. 43 大日本帝国郵便検印, 第3章（船内郵便消印） p.18
- D. 44 神戸港大観 昭和3年刊 p.18



凡例

- ・ 展示の順番にしたがって資料の情報を掲載しています。
- ・ 書誌情報は「タイトル / 編著者名等. 出版者, 出版年月日等」の順に記載しています。【 】内は資料の請求記号です。
- ・ ★印は、デジタル化資料の原本であることを示しています。デジタル化資料は国立国会図書館デジタルコレクションでご覧いただけます。公開範囲は資料により異なりますが、館内の端末からは全て閲覧可能です。

<デジタル化資料を閲覧するには>

- ・国立国会図書館サーチ（<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトルなどにより資料検索を行い、検索結果の画面で「収録元データベースで確認する」のボタンをクリックしてください。
- ・または、国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトルなどにより資料検索を行ってください。
- ・各資料の公開範囲は、書誌事項の後ろに付した以下の表示をご確認ください。

インターネット公開

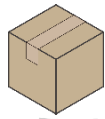
インターネット上で閲覧が可能な資料です。ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）などで閲覧できます。

館内／図書館・個人送信

国立国会図書館の館内の端末、および図書館向けデジタル化資料送信サービスに参加している図書館の端末で閲覧が可能な資料です。個人向けデジタル化資料送信サービスをご利用の方は、ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）などでも閲覧できます。

国立国会図書館内限定

国立国会図書館の館内の端末でのみ閲覧が可能な資料です。



第 1 章：物流とは、輸送とは

物流とは、生産された商品が消費者へ届くまでのモノの流れ全体を指し、大きく 6 つの機能（輸送・配送、保管、包装、荷役、流通加工、情報処理）に分けられます。輸送は、物流の中でも重要な機能であり、人力や船、トラックなどでモノを運ぶことを指します。日本においては、古くから輸送が行われ、国家の活動や人々の経済活動を支えてきました。

1 新・ロジスティクスの歴史物語：江戸から令和まで / 苦瀬博仁 著. 白桃書房, 2022.8 【DH417-M92】

ロジスティクスとは、原料調達から生産、販売に至るまでの、効率的・発展的な物流に関わる活動を総合的に管理することを指す。本書は、江戸（現在の東京都心部）の河岸（かし）と都市の形成、近代日本が経験した戦争と兵站、平成 23（2011）年の東日本大震災における物資の補給などを振り返り、ロジスティクスの歴史的役割や位置付けを論じる。さらに、デジタル化などに伴う社会の大きな変化が、「ソーシャル・ロジスティクス」という新しい概念を生み出したことを指摘し、その将来的な展開を予測している。

2 トコトンやさしい物流の本 第 2 版 (B&T ブックス. 今日からモノ知りシリーズ) / 鈴木邦成 著. 日刊工業新聞社, 2022.10 【DH417-M99】

これまで「縁の下の力持ち」といわれてきた物流が、今日ではビジネスの中核的な存在となっている。本書は、物流の仕組みとプロセス、工夫と効率化の歴史、近年の課題とその解決策、ビジネストレンドなどについて、図表を用いて分かりやすく解説する。

3 物流ビジネスと輸送技術 改訂版 (交通論おもしろゼミナール ; 6) / 澤喜司郎 著. 成山堂書店, 2017.2 【DK5-L9】

貨物輸送手段(自動車、鉄道、船舶などの輸送機関)と荷役機械(荷物の積み下ろし、移動、仕分けなどに用いられる機械機器)に焦点をあて、モノの輸送の仕組みと技術的な進化を解説。身近なトラックから、コンテナ船が出入りする港湾の施設・設備、さらには奈良県十津川村などに残る河川を渡るための人力ロープウェイ「野猿(やえん)」まで、写真を豊富に掲載し、物流技術の多様な姿を浮き彫りにしている。

★4 大日本交通史 : 原名 駅遞志稿 / 農商務省駅遞局 編. 朝陽会, 1928 【682.1-N964d】 (ちらしA資料)

インターネット公開

『駅遞志稿』は、明治時代初期に郵便事業などを管轄した官庁である駅遞寮が編纂した、日本における通信・交通の発達を叙述した歴史書である。本書は内閣印刷局から改題して復刻刊行された版である。展示箇所左ページの図は問屋場の様子、右ページの図は明治の郵便事業を描いている。郵便事業の図には、上から二つ折りはがき、街道輸送、郵便馬車、黒ポストからの郵便集めの様子が描かれている。

★5 講座・日本技術の社会史 第8巻 (交通・運輸) / 永原慶二 [ほか]編. 日本評論社, 1985.6 【M32-62】

館内/図書館・個人送信

日本における先史時代から近世までの交通・運輸の歴史を、主に技術や流通ネットワークの視点から検討した研究書。中国をはじめとする大陸の文化との共通点と相違点、輸送に使用する道具の技術進歩やそれに伴う社会の発達などが説明されている。

★6 日本交通史 / 児玉幸多 編. 吉川弘文館, 1992.11 【DK7-E125】

国立国会図書館内限定

前近代における人の移動は政治的な要因で行われる場合が多かった。その主な例が年貢の輸送や情報の伝達である。本書は、古代から近世までの日本における交通の歴史を制度や社会の視点からまとめたもの。古代の駅制、戦国大名の伝馬制度、近世の

五街道など、各時代の交通政策や往来の様子を知ることができる。

★7 運ぶ：物流日本史 / 大矢誠一 著. 柏書房, 1978.3 【DK7-108】

館内／図書館・個人送信

古代から現代までの輸送について、各時代の制度や個々の輸送手段を中心に、様々な切り口から見ていく。「茶壺道中」(pp.83-88)は、徳川将軍家へ宇治の新茶を献上する往来の様子を伝える。格式高い儀式行列であるが、沿道の住民にとっては、人馬や酒肴を要求されることもあるなど、必ずしもありがたいものではなかったようである。

★8 「運び」の社会史 (東ト協 books) / 庄野新 著. 白桃書房, 1996.4 【DK7-G35】

国立国会図書館内限定

東京都トラック協会の機関紙『東京都トラック時報』【Z85-1145】に連載された記事から、約70件を選択して再編集した1冊。社会生活の根底にあり、古来より綿々と続く人間の営みである「運び」の歴史に焦点をあてる。江戸時代にも荷車による死傷事故や騒音などの交通公害があったこと、明治5(1872)年に新橋—横浜間で鉄道が開通する以前に、北海道で石炭輸送のための鉄道が敷設されていたことなど、興味深い話題が盛り込まれている。

★9 日本文学に現われたものの運び / 宮野武雄 著. 交通日本社, 1956 【682.1-M642n】

館内／図書館・個人送信

モノを運ぶという行為は万葉集にはすでに登場し、それ以降も様々な作品で描写がされてきた。本書は古典文学に登場する輸送に関する記述を引用しながら、その作品が書かれた当時における、輸送の目的や社会の中での役割などを考察したエッセー。輸送によって栄えた地域や運ばれたモノ、輸送手段、輸送に携わる人々などに注目して内容が展開されている。

★10 写真でみる日本生活図引 2 (とる・はこぶ) / 須藤功 編. 弘文堂, 1988.12

【GB641-E19】

国立国会図書館内限定

高度経済成長期以前の人々の生活を紹介するシリーズ。展示しているのは、運ぶという行為を紹介している巻。高度経済成長期以前の人々の暮らしは、現在とは大きく異なっていた。人力による部分がまだ多く、頭や肩に載せ、時には天秤棒や背負子（しよいこ）といった運搬具を利用してモノを運ぶことが日常的に行われていた。その活動の様子を普段の何気ない場面で撮影された写真から理解することができる。

★11 日本の交通と物流：生活と産業を支える基盤 / 桑島和夫 編. 長沢出版社,

1981.7 【DK7-158】

館内／図書館・個人送信

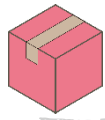
日本の交通及び物流の変遷を「写真編」と「記事編」に分けて振り返る。p.74の写真は、港でクレーン機械が100個ほどの段ボール箱を一度に吊り上げる様子をとらえている。クレーンの透明ガラスの奥に見えるのは、操縦者の姿であろうか。同様の作業を人力で行う場合、5人は必要で、時間も10倍かかるという。交通及び物流の発展が、日本の経済的な成長を支えてきたことを物語る1枚である。

★12 物流写史：明治・大正・昭和の記録 / 輸送経済新聞社. 1989.3 【DK7-

E34】

館内／図書館・個人送信

日本のトラック事業は、帝国運輸株式会社が明治40（1907）年に免許を取得し、その翌年に営業を開始したことにより幕を開けた。本書は、トラック事業80周年及び雑誌『輸送経済』【Z85-362】の創刊40周年を記念して刊行された資料であり、明治から昭和まで1年ごとに、日本の物流業界の歴史を600枚の写真を交えて紹介している。



第2章：近世までの陸上輸送と郵便

火力や電力が動力として利用可能になる以前、陸上輸送は人力や畜力に頼るほかありませんでした。日本では古代から、人が担いで運送する人担や、駄馬、車などが、中央政府への貢納物や年貢の輸送に利用されていました。

近世以前までは、飛脚と呼ばれる人々が通信や輸送を担っていましたが、近代にはいると、前島密によって近代的な郵便事業が確立されました。

13 すべての道は平城京(みやこ)へ：古代国家の〈支配の道〉（歴史文化ライブラリー；321） / 市大樹 著. 吉川弘文館, 2011.6 【DK7-J106】

古代日本における中央集権的な律令国家の建設にあたり、人・モノ・情報の移動を支える道路網の整備は、重要な要素であった。本書は特に、平城京と地方を結ぶ7つの主要幹線道路「七道」や、一定の距離ごとに駅家と伝馬を設置し遞送を行う公的交通制度「駅伝制」に注目している。また、七道を通った人・モノについても様々な事例が解説されている。

14 日本古代の輸送と道路 / 佐々木虔一, 武廣亮平, 森田喜久男 編. 八木書店古書出版部, 2019.5 【DK7-M11】

6世紀から9世紀までを中心とした日本古代の交通について、輸送と道路に注目し、多方面から明らかにすることを試みた論文集。日本の古代社会では、地方から中央政府へ貢納物が納入されており、そのために、駄馬、荷車や船など、地域ごとに多様な輸送手段が用いられていた。「僦馬（しゅうば）の党」と呼ばれる、略奪した馬で物資を輸送することを生業としている輸送集団が9世紀の時点で存在していたことがコラムで紹介されており、興味深い。

★15 古代の道路事情 (歴史文化ライブラリー ; 108) / 木本雅康 著. 吉川弘文館, 2000.12 【DK32-G135】

国立国会図書館内限定

歴史地理学の立場から、古代の道路事情についてわかりやすく解説している 1 冊。日本の古代律令国家は、直線的な大道を張り巡らせる形で道路を整備したが、これは同じく中央集権的な体制をとるローマや中国、インカと同様であった。一方で、例えばローマの古代道は、地盤を深く掘り下げて石を充填して固めているため、日本に比べ下部構造が強固であるなどの相違点もあった。本書は、駅伝制などの基本的な事項からわかりやすく解説していると同時に、外国の古代道路との比較についても言及されており、日本の古代道路の特徴がより明確化されている。

★16 塩の道を探る (岩波新書) / 富岡儀八 著. 岩波書店, 1983.9 【DM691-41】

館内 / 図書館・個人送信

近世日本における塩の輸送経路や輸送方法の分析を通して、交通路と地域の形態の関連性を明らかにしようと試みた 1 冊。本書によれば、塩が運ばれた道は、文化を伝播する道としての役割もあったという。実際に、日本では全国的に、方言分布が塩の移送圏と共通している地域が多く見られる。北前船や、内陸での馬を用いた輸送など、輸送方法についても様々な事例が言及されている。

17 商品流通と駄賃稼ぎ (同成社江戸時代史叢書 ; 20) / 増田廣實 著. 同成社, 2005.4 【GC81-H32】

江戸時代、信州や甲州で活躍した「駄賃稼ぎ」に焦点を当てた研究書。「駄賃稼ぎ」とは、牛馬の背に直接荷物を積んで運ぶ駄送を生業とした人々のことで、山の多い甲信地方では陸上輸送の主な手段であった。内陸から穀物や酒を運び出し沿岸部から塩や海産物を運んで帰るといった商品流通の様子、駄賃稼ぎ同士の勢力争い、明治に入り運送会社として再編されていく過程を、当時の訴訟記録や取引記録などの古文書からつぶさに読み解いている。

★18 江戸の牛 (都史紀要 ; 32) / 東京都 編. 東京都, 1987.3 【DK7-284】

館内／図書館・個人送信

江戸における、牛による運送の実態を述べた資料。江戸時代は幕府の規制により車両運送があまり発達しなかったが、その中において牛車（うしぐるま）の使用を許可された地域の一つが江戸である。芝車町（現在の東京都港区高輪）には牛や車を使った運送にたずさわる「牛持（うしもち）」が住み、広小路などに置かれた牛置場を物流拠点として、川で運ばれてきた物資を江戸中に届けた。

19 江戸の飛脚：人と馬による情報通信史 / 巻島隆 著. 教育評論社, 2015.2
【DK321-L16】

江戸時代の飛脚問屋の実像を明らかにした本。飛脚には、公用に使われる継飛脚から町人の利用する町飛脚まで多くの種類があった。飛脚は、物品や書状の運搬だけでなく、遠隔地との取引に欠かせない金融機能をも担う重要な存在であった。本書では引札（広告）や地誌類、古文書など様々な史料をもとに飛脚問屋の業務を読み解く。到着の速さで異なる料金設定、荷物紛失の賠償、支店や物流拠点のネットワークなど、現代の運送業に通じる話題も多い。

20 たんぶるぽすと 40(-)=538(増刊):2016.7 #飛脚 飛脚と郵便 【Z5-246】

飛脚や郵便に関する歴史研究には、古文書や論文などを精査して進める研究と、実際の遞送物に残された店判や消印などの痕跡から、遞送ルートや料金、所用日数を検証する郵便趣味的な研究がある。本資料は、その両者の手法を用い、各宿場の飛脚屋を史料と飛脚状の印判から明らかにしている。また、著者が長年収集してきた飛脚状やそこに押された印判の写真が豊富で、コレクション鑑賞としても楽しめる。

21 日本郵便創業の歴史 / 藪内吉彦 著. 明石書店, 2013.1 【DK321-L3】

日本の郵便史がバランスよくまとめられた 1 冊。明治政府は、近代的な中央集権国家を早期に建設するため、新たな通信制度として郵便の整備に注力した。本書は、従

来の輸送を担ってきた飛脚たちの郵便に対する抵抗があったことなどに注目しつつ、郵便制度がたどった道のりが詳細に描かれている。

★22 鴻爪痕 / 前島密 [著], 市野弥三郎 編. 前島弥, 大正 9 【383-80】

館内／図書館・個人送信

日本における郵便の仕組みを築き、「郵便の父」と呼ばれた前島密の伝記集。前島密の没後に前島家から発刊された。700 ページを超える書物であり、「自叙伝」「後半生録」「逸事録」「夢平閑話」「郵便創業談」「追懐録」の諸編からなる。このうち前島の自筆によるものは「自叙伝」のみであるが、その他の編も、前島の談話の記録や、前島と親しかった人々からの寄稿文で構成されており、前島研究における重要な典拠とされる。なお、標題紙の「鴻爪痕」の文字の筆跡は前島密本人のものである。

★23 前島密 (人物叢書 新装版) / 山口修 著. 吉川弘文館, 1990.5 【GK79-E16】

国立国会図書館内限定

日本の郵便事業の基礎を確立した前島は、『報知新聞』【Z86-3】の前身である『郵便報知新聞』【YD-WB43-70】の創刊や、日本通運株式会社の前身である陸運元会社の設立など、郵便事業以外の功績も多く残した。本書は、前島の青少年期についても解説されており、前島の卓越した発想力や先見性がいかにして形成されたかを描き出そうとしている。

24 佐々木荘助近代物流の先達：飛脚から陸運の政商へ / 松田裕之 著. 富山房インターナショナル, 2020.6 【GK199-M1271】

幕末の飛脚問屋支配人であった佐々木荘助の伝記。明治政府が郵便事業を創設するにあたり、課題となったのが従来の飛脚問屋との関係の整理であった。佐々木は前島密と対峙しながら、多くの飛脚問屋を糾合して陸運元会社（現在の日本通運株式会社の前身）としてまとめあげ、この会社を貨物専業とすることで信書事業を政府にゆだねた。前島に比べ注目されることの少ない佐々木だが、陸運の近代化に欠かせない役

割を果たしたと本書では説いている。

**★25 大日本郵便切手類鑑 改訂増補版 / 郵楽会 編. 日本飛行郵便協会, 1930
5版【693.8-Y994d-n(th)】(ちらしB資料)**

インターネット公開

郵便趣味団体の1つである郵楽会が発行した切手収集資料。日本で最初に発行された明治4(1871)年の郵便切手から昭和4(1929)年頃までの郵便切手を漏れなく掲載している。関東大震災の影響で発行中止となった皇太子殿下御婚儀祝典記念切手も掲載。

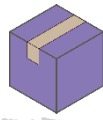
**★26 郵便小包・鉄道小荷物・宅扱運賃比較表：大阪ヨリ全国各地二至ル / 運輸
知識普及会 編. 運輸知識普及会, 昭和11【特244-409】**

インターネット公開

本書が発刊された昭和11(1936)年は、個人の荷物の発送手段が郵便小包、鉄道小荷物、宅扱に分かれており、それぞれが異なる料金体系で運用されていた時代。本書は、大阪府の主要な駅から距離や重さに応じて最も割安な発送手段を調べることができるほか、各発送方法の手引きなどの情報が詰まっている。

**27 発明に見る日本の生活文化史 農具3シリーズ 第1巻(荷車) / ネオテクノロ
ジー, 2014.6【M351-L261】**

明治期から第2次世界大戦までの特許情報を通じ、その発明を生み出す背景となった生活文化の移り変わりをとらえるシリーズ。本書は、日常的なモノの運搬に欠かせない荷車をテーマとする。ぬかるみやデコボコの道でも転覆しにくい機構(p.28)や、馬が暴れ出したときの制御装置(p.92, p.118)、引き手の体重を利用して軽く動かせる車体(p.104)などの発明からは、整備されていない道路で、馬や人間の引く車で荷物を運んでいた戦前の人々の工夫がうかがわれる。



第3章：水運

船は、陸上輸送に比べて一度に大量のモノを運ぶことができるため、古代から重要な輸送手段として利用されてきました。戦国時代に豊臣秀吉や徳川家康によって国内統一が進められると、内海の物流が活発になっていきました。

その後、河村瑞賢によって東廻り航路、西廻り航路が整備されてからは、日本列島の各地域が船によって結ばれ、全国規模でモノや人が行き交うようになりました。米を年貢として大量輸送しなければいけなかった時代において、船は非常に大きな威力を発揮したのです。

★28 船（ものと人間の文化史） / 須藤利一 編著. 法政大学出版社, 1968 【683.21-Su666h】

国立国会図書館内限定

古代から明治時代までの、日本の船の歴史を概説した本。日本の船の歴史は縄文時代に始まったが、特に江戸時代に国内水運が大きく発達した。各地を結ぶ航路が開発され、大阪と江戸の間を菱垣廻船、樽廻船などの大型帆船が盛んに行き来して物資を運んだ。一方でこれらの船は、鎖国政策の影響で造船技術の発展が制限されていたことから、風波に弱いという構造上の弱点も抱えていた。海難事故・漂流の記録、船への加護を求める民間信仰を紹介した章では、危険性の高かった当時の航海が想像される。

29 日本の船を復元する：古代から近世まで (Gakken graphic books deluxe ; 27. 復元するシリーズ ; 4) / 石井謙治 監修. 学習研究社, 2002.12 【NC51-H2】

古代から幕末までの日本の船を、ビジュアル情報豊かに紹介する資料。第2章では、江戸時代の海運の主力であった弁才船（べざいせん）について、図面や絵馬、復元模型の写真から詳しく知ることができる。弁才船は帆船の形式の一つで、千石船（せん

ごくぶね) という俗称を持つ。大量の物資を少人数で運ぶことができ、菱垣廻船、樽廻船、北前船などの廻船で大いに活躍した。

30 復元された菱垣廻船「浪華丸」 / 大阪市港湾局 編. 大阪市港湾局, 2001.3 【NC64-G106】

「浪華丸」は、菱垣廻船で使われた船を大阪市港湾局が復元したもの。本書は、平成6(1994)年から平成11(1999)年までの5年間にわたる復元作業の記録である。コンピューターによる設計から、使用された大工道具、進水に臨んでの造船儀礼に至るまで、復元過程を写真入りで詳細に知ることができる。なお、復元に当たっては当館の所蔵資料『千石積菱垣廻船二十分一図』【ん-144】が参照されたが、この資料は現存する菱垣廻船の図面として唯一のもの。

31 水運史から世界の水へ : Speeches on Water Issues / 徳仁親王 著. NHK 出版, 2019.4 【DK131-M4】

学生時代から海上交通や水運史を研究している天皇陛下(出版当時は親王)が、皇太子時代に行った水問題についての講演や講義をまとめた本。学習院大学やオックスフォード大学留学時代の研究内容と重なる「中世における瀬戸内海水運について」や「17~18世紀におけるテムズ川の水上交通について」の他、水災害をはじめとした国内外の水問題について講演した「世界の水問題の現状と課題」など、全部で8講演が収録されている。

★32 中世東国の太平洋海運 / 綿貫友子 著. 東京大学出版会, 1998.10 【DK131-G49】

国立国会図書館内限定

伊勢から関東までの地域を主な対象として、中世における太平洋海運についての実態を究明する論稿集。海運・水運の発展は江戸時代以降のことというイメージが強いが、実際は中世の頃にすでに東国社会を維持・発展させるにかなう海運・水運が機能していたことが本書を通じてわかる。また、関東の水運を見てみると、紀伊半島や九

州などの遠方とも活発に船が行き交っていた様子が浮かび上がってくる。

33 中世瀬戸内の流通と交流 / 柴垣勇夫 編. 塙書房, 2005.12 【DH417-H154】

平成 16 (2004) 年に行われた同名シンポジウムで得られた研究成果・研究課題をもとに書き下ろされた論集。9 つの論文が収録されている。瀬戸内海が、国内外と結びつく重要な流通経路として古い歴史を持ち、活発に船が行き交う海域だったことが、本書を通じて見えてくる。

34 紀伊水道およびその周縁部における中世海運・流通の研究 / 綿貫友子, 大阪教育大学 [著]. [綿貫友子], 2006-2007 【Y151-H18520495】

紀伊水道およびその周辺地域の、瀬戸内海海運と太平洋海運の間での分岐的位置付けやその特質、歴史的意義を追究している。分析の手法として、荘園に関わる資料を総合的に検討しており、それにより通行に関わる地域的連関がより明確になっている。また、僧侶や神職をはじめとする人の移動や文書の伝達、遠隔地間での為替の決済、軍事行動に関わる資料など、中世ならではの史料を分析している。

35 京都高瀬川：角倉了以・素庵の遺産 / 石田孝喜 著. 思文閣出版, 2005.8 【GC156-H70】

京都市内を流れる高瀬川を取り上げた、郷土史家による研究書。高瀬川は、江戸時代の商人・角倉了以（すみのくらしらうい）によって作られた運河。底の浅い高瀬舟を使い、京都中心部で消費・生産される物資のやりとりが行われた。本書では古文書や古地図、現代の川沿いの風景をもとに、歴史の中で変遷してきた高瀬川の流路や設備を追う。「ホーイ・ホーイ」の掛け声とともに、人間が綱で舟を引き上げる「曳き舟」の様子を写した古写真や証言も興味深い。

36 江戸時代の瀬戸内海交通 (歴史文化ライブラリー ; 516) / 倉地克直 著. 吉川弘文館, 2021.2 【DK171-M11】

岡山藩に伝わる史料である「御留帳御船手 (おとめちょうおふなて)」にもとづき、江戸時代前期の瀬戸内海における交通事情の様相を描き出した 1 冊。船による輸送は、陸上に比べ一度に大量のモノを運ぶことができる一方で、海難事故の確率も高かった。本書では、海上で事故が発生し荷物が失われた際の損害負担の仕方などについても具体的に解説しており、瀬戸内交通の重層性や多様性がうかがえる。

37 東廻海運史の研究 / 渡辺英夫 著. 山川出版社, 2002.11 【DK131-H5】

東日本、特に東北から関東地域における、東廻廻船の形成や発展についての研究書。江戸時代、東北地方の諸藩からは、江戸へ大量の廻米が輸送されていた。慶長 14 (1609) 年の銚子口で行われた土木工事の目的が、内陸部の河川水運へ連絡する中継基地の整備にあったことを論証している。

38 北前船と新潟 : 廻船と日本海海運の時代 : 新潟市歴史博物館開館 20 周年記念企画展 / 新潟市歴史博物館 編集. 新潟市歴史博物館, 2024.7 【DK171-R4】

新潟市歴史博物館が開館 20 周年記念企画として行った展示のパンフレット。北前船をはじめとした日本海海運の歴史を紹介している。北前船は、江戸時代中期から明治 30 年代にかけて、大阪と北海道を日本海回りで結んでいた商船である。特に新潟は、日本海海運と信濃川、阿賀野川水系の河川舟運が交わる要所であり、多くの廻船が行き交う港町だった。

39 船が育んだ江戸 : 物の運びがもたらす暮らしと文化 (山縣記念財団ライブラリー ; 4) / 東京海洋大学「船が育んだ江戸」編集委員会 編. 海文堂出版, 2025.2 【DK131-R9】

大都市・江戸の成長を支えた水運を、多角的に紹介した本。平成 29 (2017) 年から令和 2 (2020) 年にかけて東京海洋大学附属図書館で行われた展示会の内容を書籍

化したもの。「海」「川」「船」「恵み」の4章で構成されており、近辺の海流データや治水事業の歴史、物流システム、舟遊びや上方からもたらされた「下り酒」を楽しむ人々など、江戸の水運にかかわる幅広い話題が盛り込まれている。

**40 河岸 (ものと人間の文化史 ; 139) / 川名登 著. 法政大学出版局, 2007.8
【DK175-H40】**

近世日本に生まれた「河岸」について分析した本。河岸とは本来、川に面して船から荷物や人を揚げ下ろしする、川の湊のことである。江戸時代、大量の年貢米を江戸に運ぶ必要性から、船を用いた河川水運が発達し、それに伴い河岸も設けられていった。また、河岸は、運輸機構をもつ集落一帯を指すこともあり、商人だけでなく、百姓や遊女など、様々な人が暮らす場であった。本書は河岸で見られた社会生活を描き出している。高度経済成長期になり大型トラック輸送が行われるようになると、河川水運と河岸はその役目を終えた。

**41 司馬遼太郎『菜の花の沖』と北前船 / 塩見英治 著. 風詠社, 2021.2
【DK171-M12】**

江戸時代の廻船商人である高田屋嘉兵衛を主人公とした司馬遼太郎の長編小説『菜の花の沖』を題材として、江戸時代における北前船の地域的展開について解説している。嘉兵衛は物語中で蝦夷地に進出するが、実際に北前船は遠隔間の貿易で高い収益を上げることができたため、当時、多くの北前船主たちが蝦夷地での交易を目指していた。本書からは、松前藩やアイヌ、そして蝦夷地に進出してきていたロシア勢と、北前船との関係も見えてくる。

42 北前船の近代史 : 海の豪商たちが遺したもの 3 訂増補版 (交通ブックス ; 219) / 中西聡 著. 交通研究協会, 2023.11 【DK171-R2】

北前船主たちの活動実態や、明治期以降の産業化に与えた経済的影響を解説した1冊。北海道から日本海沿岸、瀬戸内、畿内など、北前船と関係のあった地域について

網羅的に検討を行っている。

北前船が、江戸時代後期から明治時代前期にかけての社会の変革期に、日本の商品市場を活発化させたことや、有力な北前船主たちが、北前船衰退後は銀行経営に積極的に関与したことなどが紹介されており、日本の近代化の中で北前船が大きな役割を果たしたことがわかる。

★43 大日本帝国郵便検印, 第3章(船内郵便消印) / 江口彪一郎 著. 漫歩クラブ, 昭和16【693.9-E33ウ】(ちらしC資料) インターネット公開

著者が収集した国内外の船内郵便消印(明治初期～昭和初期)が記録された1冊。航路や船名ごとに異なる消印が紹介されている。中には、第1次世界大戦時の船舶郵便所にて押印された消印も(p.32)。

★44 神戸港大観 昭和3年刊 / 神戸市港湾部 編. 神戸市港湾部, 昭和3【518-75へ】(ちらしD資料) インターネット公開

神戸港に関する各種データを収めた年鑑。統計や施設の現況、気象情報に至るまで、各年の情報を一覧できる。神戸は古くから海運の拠点であったが、慶應3(1867)年に近代港湾として開かれて以降、本格的な整備と拡張が行われた。昭和3(1928)年刊行の本資料では、前年に着手したばかりの苅藻島運河開設に言及している。これは神戸市が港湾施設の建設を自ら施工した初めての大規模な工事とされる。展示箇所は、過去の入港船舶数を示した図。おおむね増加一方の数字から、当時の繁栄が思われる。

45 コンテナ物語：世界を変えたのは「箱」の発明だった 増補改訂版 / マルク・レビンソン 著, 村井章子 訳. 日経BP, 2019.10【DK3-M3】

貨物を一定の大きさの箱に詰めて輸送するコンテナリゼーションが物流に与えた影響を描く本。コンテナ使用は1950年代のアメリカで始まり、港での積み下ろし作業を劇的に効率化した。それに伴う港湾労働者組合との軋轢、コンテナ規格統一をめ

ぐる関係者の駆け引き、コンテナに対応するための設備投資が港の興廃を分けていく過程など、1つのイノベーションが社会を変えていく様子がドラマティックに展開される。

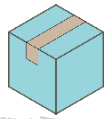
★46 内航近海海運 1997年版夏 32(746) 【Z5-239】

館内／図書館・個人送信

内航、近海、フェリー、特殊船の情報を扱う専門誌。平成16(2004)年からは『内航海運』という誌名に変更された。運輸行政や市場動向、物流動向、会社ニュースなど、様々な情報が掲載されている。

47 海上物流を支える若者たち：内航海運と船員のいまを知る / 森隆行 著. 海文堂出版, 2019.5 【DK171-M3】

内航海運の現在をコンパクトに紹介した1冊。内航海運とは、日本国内で、港から港へ物資を運ぶこと。本書は船の仕事を目指す若者向けに、関係者へのインタビューを中心として構成されている。航海士や機関士、司厨員(船上での食事を作る調理師)など現場で働くスタッフの日常、船主による座談会、女性が働きやすい環境や人手不足解消への取り組みなど、様々な視点から業界の現状を知ることができる。



第4章：鉄道

明治時代に入ると鉄道が敷設され、陸上輸送が発達し、鉄道が貨物輸送の主流となります。当初は石炭などの工業原材料の輸送が中心でしたが、次第に一般貨物も増加しました。

鉄道は人々の暮らしを支えるとともに、戦時中は兵員や軍需物資を輸送する手段として使われるなど、戦争と密接な関係も持っていました。

48 写真でみる貨物鉄道百三十年 / 日本貨物鉄道株式会社写真でみる貨物鉄道百三十年編集委員会 編. 日本貨物鉄道, 2007.10 【DK113-J3】

豊富な写真や図で日本の貨物鉄道の歴史を辿る 1 冊である。鉄鉱石を運んだ釜石鉄道の建設から関門トンネルの開通、国鉄分割民営化後の新しい輸送技術の開発まで、幅広い内容を取り上げている。各章にその年代の鉄道路線網の整備状況が記載されており、ページが進むにつれて路線網が拡大・再編成していく様子も見どころの一つ。

49 モノを運ぶ鉄道展：列車が乗せるのは人だけじゃない。：貨物鉄道輸送 150 年記念 / 京都鉄道博物館 編集. [京都鉄道博物館], 2023.9 【Y93-R127】

本書は、令和 5（2023）年に開催された京都鉄道博物館の企画展の図録である。平成 25（2013）年まで関西の物流を支えた貨物専用駅「梅田駅」と吹田貨物ターミナル駅の変遷を特集している。ヘッドマークから貨物輸送の歩みを振り返るなど、興味深い情報が満載である。

★50 幌内線史：開拓のいしずえとして / 岩見沢市, 1988.3 【DK53-E31】

館内／図書館・個人送信

北海道開拓の礎となった幌内線の廃線を受けて、その 140 年にわたる歴史を記録に残すべく、多くの関係者から資料の提供を受けて発行された 1 冊。炭脈の開拓から石炭の輸送で繁栄を築いた釧山鉄道時代を経て、石油の登場による衰退・廃線までが、当時の記録や写真を用いて語られている。

★51 戦う鉄道：決戦下の輸送作戦 / 大政翼賛会宣伝部, 昭和 18 【686-Ta24
ウ】

インターネット公開

第 2 次世界大戦中に大政翼賛会宣伝部により発行された資料。本書は輸送についての認知を拡大し、戦争に要する輸送力の増強を目指す広報的役割を担っていた。貨物輸送の重点化を進める「戦時陸運非常体制」確立の背景も要約されている。資料の紙質や、「これからは雑誌でも、本でも一冊を十人も百人もの人で読めるやうに」という冒頭の一文から、当時の物資不足の様子がうかがえる。

★52 決戦輸送図絵 / 運輸通信省鉄道総局, 昭和 19 【686-U772 ウ】

インターネット公開

第 2 次世界大戦中に運輸通信省鉄道総局により発行された 1 冊。鉄道による石炭や木材などの資材及び生活必需品の輸送状況を知ることができる。また、船舶が大陸や南方での輸送に必要となったため、内地沿岸の輸送が海運から鉄道その他の陸上輸送に推移した実態など、鉄道の重要性を訴える内容となっている。

53 通運事業の歴史 / 熊木茂夫 著, 通運情報社, 2016.1 【DK32-L86】

鉄道を貨物輸送の主役として、通運事業史にフォーカスした 1 冊。前島密と佐々木 莊助により郵便が信書と貨物に分離した明治 5 (1872) 年から昭和 49 (1974) 年まで、近代化する国鉄貨物輸送の様子が、著者による取材や各通運事業社の社史などの文献調査をもとに書かれている。

54 貨物列車のあゆみ：鉄道貨物の歴史と未来 (交通新聞社新書；176) / 小島

英俊 著. 交通新聞社, 2024.3 【DK113-R1】

本書は、日本の貨物鉄道輸送の歴史を詳しく述べている。特徴的なのは、海外との比較も加えていることである。例えば米国や中国のような広大な国土を持つ国では、鉄道輸送が自動車輸送に対しシェアで優位であるという事実は、鉄道輸送のシェアが少ない日本の現状を考える上で興味深い視点を与えてくれる。また、モーダルシフトといった現代の課題にも言及し、貨物鉄道の持つ可能性と懸念を多角的に描いている。

★55 鉄道貨物輸送と停車場：貨物ターミナルと貨車ヤード 鉄道貨物輸送小史 /

上楽隆 著. 東神堂, 1993.12 【DK113-E4】

館内／図書館・個人送信

国鉄の職員として長年勤めた著者が、貨物輸送史における貨物停車場について、特に貨物ターミナルと貨車ヤードを中心に取り上げてまとめた小史。多数の操車場及び貨物ターミナル配線略図を用いて歴史を紹介するとともに、貨物ターミナルの今後の課題が論じられている。

56 鉄道貨物：再生、そして躍進 / 伊藤直彦 著. 日本経済新聞出版社, 2017.11

【DK113-L14】

著者は、国鉄時代から JR 貨物の社長・会長職に至るまで、長きにわたり鉄道貨物事業に携わってきた人物。本書では、その経験に基づき、国鉄分割民営化や鉄道貨物輸送の減少といった大きな課題をどのように乗り越えてきたのかを詳述している。日本の鉄道貨物輸送の歴史と、それを支えた経営戦略を知る貴重な記録である。

57 貨物鉄道読本：日本を支える物流の大動脈貨物鉄道のひみつ (旅鉄 BOOKS ;

038) / 「旅と鉄道」編集部 編. 天夢人, 2021.2 【DK113-M6】

東京貨物ターミナル駅の構内や作業風景、貨物列車をけん引する機関車、多彩な貨車やコンテナ、そして JR 線と臨海工業地帯を繋ぐ臨海鉄道の役割まで、貨物鉄道の奥

深い世界に多角的な視点から迫る 1 冊。雑誌『旅と鉄道』【Z8-769】の増刊号における 2 回の特集記事をもとに、加筆・再編集を経て刊行された、資料性の高い構成となっている。

58 日本貨物鉄道地図鑑：日本を運ぶ美しき車両たち (別冊太陽) / 木村雄一 著, 地理情報開発 編. 平凡社, 2020.4 【Y94-M8481】

「地図」と「図鑑」を融合させた、「地図鑑」と呼ぶにふさわしい資料である。力強く疾走する貨物列車や、日本の四季折々の美しい風景に溶け込む貨物列車の写真が掲載されている。そして全国貨物鉄道マップも網羅されており、貨物鉄道とともに日本中を旅しているような気分を味わえる。

★59 鉄道ピクトリアル 30(12)(383) 【Z16-498】

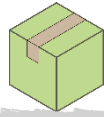
国立国会図書館内限定

60 鉄道ピクトリアル 63(7)=877:2013.7 【Z16-498】

長い歴史を持つ鉄道趣味雑誌から貨物列車特集が組まれた 2 冊をピックアップ。国鉄時代後期の昭和 55 (1980) 年 12 月号や、民営分割後の平成 25 (2013) 年 7 月号から、各時代の鉄道貨物輸送の現状を垣間見ることができる。写真が豊富に掲載されており、見ているだけでも楽しい資料となっている。

61 貨物時刻表：2025 年 3 月ダイヤ改正 2025 / 鉄道貨物協会, 2025.3 【Y77-R860】

本書は、貨物列車の時刻表や貨物鉄道路線図に加えて、コンテナ輸送の仕組みや環境配慮への取組みの紹介など、貨物輸送に関わるさまざまな情報が掲載されている。貨物鉄道路線図と過去に発行された『貨物時刻表』とを比較すると、事業変遷の様子が窺える。



第5章：自動車

トラックは戦前にも利用されていましたが、主流となるのは戦後になってからでした。高度経済成長期には、高速道路の開通にともない、大型トラックが開発されて自動車での大量輸送が実現されました。今日に至るまで、自動車輸送は国内貨物輸送の根幹を支えており、宅配便や引っ越し輸送など、わたしたちの身近なところでも活躍しています。

62 日本のトラックの歴史 / 日新出版, 2006.12 【NC23-J214】

本書は、日本のトラックの歴史を、技術開発や法規などの多角的な側面から詳述している。トラック製造に関わる企業の沿革、そして戦前戦後の限られた時期に活躍した三輪トラックの歴史にも焦点を当てている。さらに、著者らが日本でのトレーラーの普及を支持していることから、トレーラーの歴史についても詳細に記述されている。

★63 現代のトラック産業 (交通ブックス ; 110) / カーゴニュース 編著. 交通研究協会, 1998.4 【DK32-G76】

国立国会図書館内限定

本書は、日本のトラック業界の全体像を詳細に解説する1冊である。特に、昭和30年代における急激な発展と、それに続く時代の変遷を追っている。中小零細業者が大半を占めるという業界の構造や、欧米諸国の物流・トラック事情との比較を交えながら、主要社の戦略を紹介している。また、現代のトラック業界が直面している労働環境や、トラックが自然環境に与える影響などの社会的課題についても深く掘り下げている。

64 宅扱：昭和はじめの宅配便 / 物流博物館 編. 利用運送振興会, 2003.4 【Y93-H588】

宅扱(発足当初の名称は特別小口扱)は、陸上輸送の主役が鉄道だった昭和初期に、

鉄道省が駅から先の配達を担う小運送業の合理化を目指して打ち出した輸送サービスである。本書は、その登場から終わりまでをまとめた物流博物館編集のパンフレットであり、宅扱の普及やサービスの特徴について、多くの写真をもとに解説されている。

**★65 宅配便：現代輸送のイノベーター / 齊藤実 著. 成山堂書店, 1991.3
【DK32-E72】**

国立国会図書館内限定

小荷物を対象とした輸送サービスである宅配便に焦点を当て、多面的に分析している。本書では、宅配便が技術革新に裏打ちされ、極めて優れた成長力を持ち、経済的・社会的に質的な変化をもたらす可能性を秘めていることを明らかにする。

**66 ヤマトグループ 100 年史：1919-2019 / ヤマトホールディングス株式会社
編集, 小島尚烈, 石井晋 執筆. ヤマトホールディングス, 2020.11 【DH22-
M581】**

大正 8 (1919) 年、大和運輸株式会社として創業した、ヤマトホールディングスの歩みをたどる社史である。本書では、日本のトラック運送業の幕開けから近年の技術進歩に至るまでの変遷を一望することができる。必読は「クロネコマーク」の誕生秘話 (p.91)。昭和 32 (1957) 年に提携した米アライド社のマスコットマークを参考に、「親猫が子猫を運ぶように荷物を丁寧に扱う」という気持ちを込めて図案化されたとのことである。

**★67 道路貨物運送政策の軌跡：規制から規制緩和へ (日通総研選書) / 谷利亨
著. 日通総合研究所, 1990.4 【DK32-E51】**

館内 / 図書館・個人送信

交通に関する企業や研究者と交流のある著者が、通運業に対する政府の保護助成や規制緩和に着眼しながら、明治以来の道路貨物運送政策と、その背景にある通運業 120 年を振り返る。

68 貨物自動車政策の変遷 / 野尻俊明 著. 流通経済大学出版社, 2014.3 【AZ-474-L18】

明治 30 年代からの貨物自動車に関する政策の変遷を、同政策に長く関わってきた著者が論述したもの。政策側の規制と緩和や事業者側の競争と自由とが複雑に入り組みながら、貨物自動車政策が改正、廃案、新法の制定などを繰り返して現代までたどり着いた経緯が、多くの参考文献を用いてまとめ上げられている。

69 物流発展と生産性：戦後日本トラック輸送の発展から（神戸学院大学経済学研究叢書；21） / 関谷次博 著. 晃洋書房, 2019.2 【DK32-M4】

戦後、貨物輸送の主役が鉄道からトラックへと変わった背景を分析する。道路整備の進展に加え、迅速な輸送を求める荷主の細やかなニーズにトラック輸送がより柔軟にこたえられたことなどが、この変化を促したとしている。

70 冷凍車の歴史：揺籃期から成熟期への半世紀 / 日本冷凍空調工業会輸送用冷凍ユニット委員会, 2004.3 【NC23-J188】

本書では、冷凍車の開発やコールドチェーン勧告を契機にした新規参入及びその後の淘汰・撤退、改造車問題やフロン対策など、冷凍車業界発展のあゆみに関して、細部まで解説されている。冷凍車の歴史を形成した各冷凍機メーカーの小史も見どころ。

71 トラックドライバーにも言わせて（新潮新書；854） / 橋本愛喜 著. 新潮社, 2020.3 【DK31-M23】

元トラックドライバーの著者が、現役ドライバーの過酷な労働環境と、日本の道路の諸問題を深く掘り下げている。自身の半生を交えながら、物流業界が今後取り組むべき改善点についても提言する、示唆に富む内容となっている。



第6章：輸送の現在

宅配便の発達やインターネットの普及により小口配送は増加し続け、輸送は今や人々の生活に欠かせないものとなりました。一方で、ドライバーの高齢化や物流の2024年問題により、物流現場では人手不足が課題となっています。円滑な輸送を維持する方策の1つとして、自動車輸送から船や鉄道による輸送への転換（モーダルシフト）が進められています。

さらに、近年は、環境への配慮や災害時の緊急物資輸送など、新たな視点での取組も活発になっています。

72 ネット通販時代の宅配便（日本交通政策研究会研究双書；29） / 林克彦，根本敏則 編著. 成山堂書店, 2015.7 【DK31-L22】

ネット通販の普及によって、物流は大きく変化した。日本ではほとんどのネット通販事業者が配送を宅配便に頼っているが、世界的には珍しい事例である。当日配送や翌日配送サービスはどのようなシステムにより実現されているのか、個人間配送サービスであった宅配便がどのように企業にも広まったのか。本書はネット通販時代の宅配便について、日本と諸外国を比較しつつ特徴や課題を検討している。

73 物流業における働き方改革と諸課題への対応 / 小針泰介（掲載誌 レファレンス 73(12)=876:2023.12 pp.103-126 【Z22-554】）

輸送能力の不足が懸念された「物流の2024年問題」を念頭に置いて、道路貨物運送業の現況と国内外の政策を概観するとともに、主に働き方改革の観点から日本の主要な課題を整理する。

74 鉄道貨物輸送とモーダルシフト / 福田晴仁 著. 白桃書房, 2019.3

【DK113-M2】

近年、ドライバー不足など、トラック輸送を中心とする貨物輸送の問題が顕在化している。その解決策の1つとされるのが、トラック輸送から鉄道や船舶による輸送への転換を図る、いわゆる「モーダルシフト」である。鉄道は、モーダルシフトの受け皿となり得るのか、なり得るならばどのような方策が必要になるのであろうか。本書は、各種貨物鉄道事業の輸送・経営状況を考察した上で、モーダルシフトの促進に必要な、鉄道貨物事業への新規参入やインフラ整備などの施策を検討している。

75 モーダルシフトと内航海運 / 森隆行 編, 松尾俊彦 [ほか] 著. 海文堂出版,

2020.4 【DK171-M10】

内航海運は、大量輸送や環境負荷低減が可能であることから、モーダルシフトの受け皿の一つと考えられている。本書は、内航海運へのモーダルシフトへの課題、内航船の船種ごとの特徴や市場における棲み分けなどを分析するほか、海外の政策や日本企業の事例を紹介する。

76 トラック輸送イノベーションが解決する物流危機 (日本交通政策研究会研究双

書 ; 37) / 兵藤哲朗, 根本敏則 編著. 成山堂書店, 2024.3 【DK32-R13】

トラック輸送の効率化の手段の一つとしてトラックの大型化が注目されている。その中でも、荷台部分を2つ連結させたトラックであるダブル連結トラックは、平成28(2016)年の社会実験以降普及しつつある。本書では、ダブル連結トラックの技術や効果を紹介するとともに、サービスエリアの混雑解消や通行制度の改善といったインフラ側の対応の必要性にも言及している。

77 ドローン産業応用のすべて 続 / 野波健蔵 編著. オーム社, 2020.8

【NC125-M69】

トラックドライバー不足を解消するだけでなく、離島や山間部などへの配送の効率

化や、買い物弱者支援にもつながるドローンが、新たな輸送手段として期待されている。政府の、「平成 30（2018）年度から監視者なし目視外飛行を離島や山間部などから開始する」という目標のもと、ドローンを活用した荷物配送の取組みが進められており、本書では楽天グループと日本郵便の試験的な取組みを紹介している。

78 日本の物流事業 2024 【Z4-1237】

日本の物流業界の現状や動向、企業情報などをまとめた年鑑。展示している令和 6（2024）年版には、「働き方改革「初年度」を振り返る」という特集が組まれている。国土交通省の担当者や研究者へのインタビューを掲載するとともに、物流企業の先進事例や今後の業界予測などを掲載している。

79 物流問題研究 (56):2011.夏 【Z4-518】

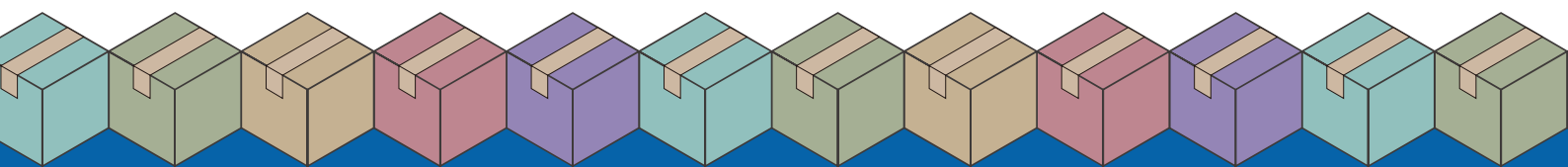
平成 23（2011）年の東日本大震災において、初めて政府の緊急災害対策本部が要請して緊急支援物資輸送が実施された。本資料は全日本トラック協会や JR 貨物の対応の内容や経過を報告し、課題を検討したもの。正確な情報が把握できないことによる需要と供給のミスマッチや、行政と物流事業者との連携などの課題が発見された。

80 救援物資輸送の地理学：被災地へのルートを確保せよ / 荒木一視, 岩間信之, 楮原京子, 熊谷美香, 田中耕市, 中村努, 松多信尚 著. ナカニシヤ出版, 2017.11 【DK7-L138】

地理学の視点から、災害時における救援物資輸送について検討した資料。自然災害のメカニズムや地理学での既存研究について述べた後、南海トラフ地震を例に、津波浸水や土砂災害による道路被害などを想定した、被災地への効果的な物資輸送のシミュレーションを試みている。

81 物流とSDGs：ビジネスパーソンのための「物流」基礎知識 / 森隆行 著. 同文館出版, 2023.5 【DH417-M117】

SDGsはSustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」という意味である。SDGsは世界の大きな潮流となっており、物流業界でも持続可能な社会の実現に向けた行動を求められている。本書では、SDGsの目標ごとに物流との関わりを解説し、目標達成に向けた取組を紹介している。



会期：令和8年2月19日（木）～3月17日（火）

会場：関西館 閲覧室

発行：国立国会図書館

編集：国立国会図書館関西館 資料展示班

